



Banco MUFG Brasil S.A.

Treasury & Markets

Av. Paulista, 1274 – Bela Vista

São Paulo, SP – 01310-925

1. マーケット・レート

			7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	8月2日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.7810	3.7910	3.8110	3.8400	3.8890	+0.0490
	BRL/JPY	Spot	28.77	28.65	28.53	27.95	27.42	-0.53
	EUR/USD	Spot	1.1145	1.1155	1.1078	1.1083	1.1109	+0.0026
	USD/JPY	Spot	108.78	108.61	108.76	107.33	106.58	-0.75
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	5.525	5.509	5.551	5.583	5.455	-0.128
	Future	1Year(p.a.)	5.408	5.398	5.422	5.342	5.385	0.043
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.822	2.625	2.894	2.746	2.707	-0.039
	USD	1Year(p.a.)	2.612	2.543	2.688	2.608	2.592	-0.016
株式	Bovespa指數		103,482.60	102,932.80	101,812.10	102,125.90	102,673.70	+547.80
CDS	CDS Brazil 5y		124.89	126.70	126.93	126.93	131.64	+4.71
商品	CRB指數		177.799	178.344	178.526	172.804	173.355	+0.551

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデックスです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2.週間市況、トピックス

- 今週は米国FOMCのややタカ派的な結果や米中貿易戦争に対する懸念の再燃からレアルは軟化
- 29日(月)、レアルは3.7790で寄り付いた後、強硬離脱派で知られるジョンソン元外相が英国首相に就任したことを受け、同国の合意なき離脱リスクが意識されやや軟化。30日(火)は国内外で目立った材料を欠き小動きに終始した。31日(水)は午前に月末Fixingに向けた強めのインフローが観測されたことからレアルはやや強含み、週間高値となる3.7500を付けたものの、午後に入ると米国FOMCが総じてややタカ派的な結果となったからドルが主要通貨に対して上昇し、レアルは下落に転じた。またこの日、ブラジル中銀も50bpsの利下げを決定した。1日(木)は米トランプ大統領が中国からの輸入品に10%の関税を課す考えを示し、米中貿易戦争に対する懸念が再燃したことからレアルは続落。2日(金)は引続き通商懸念を背景にレアルは下げ幅を拡大し週間安値となる3.8890まで下落し、結局同水準で越週した。
- 29日(月)発表のブラジル中銀によるアナリスト予想集計では、2019年の経済成長率予想は前週比横ばいの0.82%に据え置かれたほか、2020年についても2.10%と前週比不变だった。インフレ率予想は2019年が3.78%から3.80%に上方修正された一方、2020年は3.90%に据え置かれた。年末の為替レートは2019年は3.75で据え置き、2020年も3.80で据え置かれた。
- 31日(水)、米FOMCでは25bpsの利下げとバランスシートの縮小停止を2か月早めることを決定。注目された議長会見でパウエル議長は、経済の下方リスクを指摘しつつ、今回の利下げについて予防的利下げであることを表明。市場では総じてややタカ派的と受け止められた。また同日、ブラジル中銀も政策金利(Selicレート)を50bps引下げ、6.00%とする決定した。
- 1日(木)、トランプ大統領は中国からの3,000億ドル相当の輸入品に対して10%の関税を課す考えを表明。
- 2日(金)に発表された米国の7月雇用統計は穏当な結果となり、既に9月利下げを織込まれるなか、その後の金融政策を判断する材料とはならなかつたため市場への影響は限られた。

3.今週のチャート&ハイライト



ブラジル中銀による利下げの為替相場への影響は?

今週ブラジル中銀は政策金利を50bps引下げ、6.00%とする決定をした。声明文では追加緩和も示唆され、市場は年末までに政策金利は5.50%まで引下げられると予想する。同じく米FRBも利下げを決定したが、市場は年末までの利下げペースについてブラジルが米国を上回ると想定している。通常、米伯間の金利差縮小は、低金利通貨で調達し高金利通貨で運用するキャリートレードを想起させるため、レアル安要因として捉えられる。他方、利下げが将来の経済成長を促すとの期待感がレアルを下支えするとの見方もある。しかし同国のファンダメンタルズは依然として弱く、経済成長見通しにも明確な上昇はみられないため、現時点ではレアル安要因としてみておきたい。



4.来週の為替市場注目点

予想ドル・レアル相場レンジ：3.75—3.95

来週は議会再開に伴い、年金改革法案の審議を睨んだ展開を予想。

7月半ば以降、議会休会入りに伴い目立った国内材料を欠くなかで、レアルはドル相場を中心に海外市場との連関を強めて推移してきた。足許、レアルが軟調推移を続ける要因は、ややタカ派寄りに映った米FOMC、米伯金利差縮小によるキャリートレード、更には米中貿易戦争に対する懸念の再燃が指摘できようが、これらは来週も引き続きレアルの上値を抑えるだろう。加えて、英国ではジョンソン首相誕生により合意なき撤退のリスクがくすぶるほか、中東情勢も引き続き緊迫しており、これらの政治・地政学リスクもレアル安要因として意識されよう。

他方、来週は議会が休暇から明け、下院において年金改革法案に関する2度目の審議が行われる予定であり、その帰趨に高い注目が集まろう。事前の各種報道によれば、同法案は来週中に下院での表決を終え上院に上程されるとみる向きが大勢を占める。しかし投票スケジュールに遅れがみられたり、強い反対意見により下院通過が危ぶまれる場合には、レアルは上記の各要因も相まって一段と下げ幅を拡大する可能性もあるため注意したい。

したがって、来週は序盤こそ米FOMCの結果や米中貿易戦争に対する懸念が引き続きレアルの上値を抑えようが、下院での年金改革法案の審議が進展するにつれレアル高に転じる展開を予想する。レンジはレアル高寄りにみておきたい。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FIPE消費者物価指数(月次)	0.17%	0.14%	0.15%
米	非農業部門雇用者数変化	165k	164k	193k
米	失業率	3.6%	3.7%	3.7%
米	平均時給(前年比)	3.1%	3.2%	3.1%
米	労働参加率	62.9%	63.0%	62.9%
米	製造業受注-資本財(非国防/除航空機)	--	1.50%	1.90%
米	ミシガン大学消費者マインド	98.50	98.40	98.40

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
米	8/5	マーキット米国サービス業PMI	Jul	52.20	52.20
米	8/5	マーキット米国コンポジットPMI	Jul	--	51.60
米	8/5	ISM非製造業指數	Jul	55.50	55.10
ブラジル	8/6	自動車販売台数(ブラジル自重)	Jul	--	223198.00
米	8/7	JOLT求人	Jun	7400.00	7323.00
ブラジル	8/7	小売売上高(前年比)	Jun	0.60%	1.00%
ブラジル	8/8	広義小売売上高(前年比)	Jun	2.20%	6.40%
ブラジル	8/8	FGV CPI IPC-S	Aug	0.28%	0.31%
ブラジル	8/8	IBGEインフレIPCA(前月比)	Jul	0.25%	0.01%
ブラジル	8/8	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Jul	0.03	0.03
米	8/8	新規失業保険申請件数	Aug	215k	215k
米	8/8	失業保険継続受給者数	Jul	1691k	1699k
ブラジル	8/9	FIPE CPI-週次	Aug	0.17%	0.12%
ブラジル	8/9	IBGEサービス部門売上高 前年	Jun	-2.30%	4.80%
米	8/9	PPI 最終需要(前月比)	Jul	0.20%	0.10%